

8 有床義歯技工学実習における評価基準策定の試み

丸山 満, 中澤孝敏, 佐々木聡, 野村章子, 河野正司

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 有床義歯, 歯科技工実習, 評価基準

はじめに

歯科技工実習における指導において, 実習課題の評価には明確な評価基準が確立されていなければならない。加えて, 実習課題から何を学ばせるか学習目標も明確に示すことが必要である。それには, 第一に指導要点を整理して評価基準を設定する必要がある。そこから学習目標を導き出せば, 学生自身が実習から何を学ぶのか目標設定が容易になる。

そこで, 有床義歯技工学実習における評価基準を策定し, その評価基準に従い教員が課題の評価を試みたのでここに報告する。

方法および対象

実習課題は, 国家試験の実技科目である全部床義歯の排列から歯肉形成までとした。

原案は, 有床義歯技工学の実習指導を担当する教員が作成し, 全部床義歯における義歯床の安定に重要な項目を挙げ, 学科会議で検討を重ねた。

各分類の評価基準は,

1. 到達度: 課題が最後のステップまで終了している
 2. 排列: 1) 唇側面観/正中, 唇頬側の豊隆, 前歯部人工歯の近遠心および唇舌の歯軸, 前歯部の被蓋, 側方調節彎曲
2) 側方面観/上顎中切歯切縁の位置, 前後の調節彎曲
3) 咬合面観/歯列弓の左右対称性
 3. 咬合: 上下顎白歯部人工歯の咬合接触状態
 4. 歯肉形成: 歯頸線の形成, 舌側の歯頸部形成, 唇側の歯根形成, S字状隆起の形成, 歯肉形成の左右対称性, 切歯乳頭の形成, 口蓋ヒダの形成
- 以上の4種18項目とした(図1)。

評価基準に従い教員3名で歯科技工士学科1年生(30名)の実習課題を一項目につき5段階(0~4点)の数値で評価した。

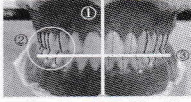
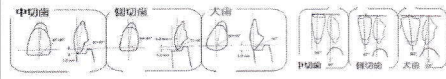
全部床義歯	
項目	評価内容
1. 【到達度】	・課題が「歯肉形成」および「口蓋ヒダ」の形成まで終了している
2. 【排列】	1) 唇側面観 ① 正中(上下顎左右中切歯の近心と模型の正中が一致)  ② Bonwillの3点接點理論が確立されるように, 犬歯~第2大臼歯の唇頬側の豊隆が同様の傾斜になっている(図中の②の囲み) ③ 前歯の近遠心歯軸傾斜(上図中の破線, 下図参照) (③の咬合平面を基準にデンタルメジャーで角度を確認する) ④ 前歯の唇舌の歯軸傾斜(下図参照) 

図1 策定した評価基準(一部抜粋)

結果および考察

18項目の評価点を3名の教員間で比較し, ばらつきについて検討した結果, 4. 歯肉形成の切歯乳頭の形成, 2. 排列の上顎中切歯の切縁の位置関係にやや差が見られた。それ以外の16項目に大きな差は見られなかった。差が見られた2項目は, 評価基準に示した文章や図が抽象的な表現だったと考えられた。また, 評価した3名の教員は今迄よりも評価に時間がかかるが, 明確に評価できるという意見があった。

まとめ

策定した評価基準は, 教員間で討議を重ねることによって実習目標に対する共通認識を持ち, 自己研鑽に努めることが重要であると考えられる。

より充実した評価基準にするためにも引き続き検討していきたい。